

# 環境技術で破壊的革新を

## 今後の競争軸説く

### 津で本社 元日立の湯之上氏講演 政経懇話会

伊勢新聞政経懇話会九月例会は十三日、津市大門の津都ホテルで開き、半導体技術者で社会科学者の湯之上隆氏が「イノベーションのジレンマ―半導体産業と日本の未来」と題して講演した。湯之上氏は、常識を変える発明が新たな市場を

生み出す「破壊的イノベーション(技術革新)」の重要性を説いた上で、日本が今後、環境技術で同イノベーションを起こし、世界の貧困層の文化的発展に貢献してほしいと語った。

日立製作所などの半導体技術者だった湯之上氏は、日本の半導体が国際競争に負け、浮上できずにいる理由として、性能優先で過剰に高品質な物を作り、原価が高く利益が少ない体質を続けているためだと指摘。海外大手各社の、安く大量生産するという「高度な『破壊的技術』に(日本は)駆逐された」と敗因を語った。

「日本の未来について、新興諸国の中間層や世界三十億人以上いる貧困層に目を向ければ、『無限のチャンスがある』と発言。新たな『破壊的イノベーション』を起すヒントとして、『あらゆる産業で今後『環境』が新たな競争軸になるだろう。既存のパラダイム(認識)を破壊するんじゃないか』と述べ、エコ技術での破壊的革新を期待した。



講演する湯之上氏。津市大門の津都ホテルで

半導体産業の今後について、中国・インドなどアジアの成長がある限り、半導体の成長は続く」とし、パソコンや携帯電話、デジタル家電、車などの基幹部品である半導体の市場規模は今後も増大すると述べた。

ただ、半導体はねじ・くぎ同様、一般的に広く使われる技術となり、「価格は下落し続ける」ため、「安く大量に作る事が重要」と強調。高い技術力を持つ日本だが、技術者や経営者

「未来は予測するものではなく、固い信念でつくり出すものだ」とし、一人ひとりが技術革新をつくり出していく信念が必要だと説いた。

## 移設反対派が

### 名議 市議選 政府、普天間

政府が米軍普天間飛行場(沖縄県宜野湾市)の移設先としてしている同県名護市で

再び示された。

菅直人首相は、移設先を名護市辺野古崎地区として

12日、市議選(定数27)が

5月の日米共同声明の署名を要請しているが、也元の

受領票をめぐり、多岐文相を尋

ねた。